

青年・成人の発達要求と大学教育 —学習・研究要求の具体化とその支援のあり方を中心に

【代表者】

西垣順子 大阪市立大学 大学教育研究センター 准教授

【共同研究者】

白井利明 大阪教育大学 教育学部 教授

岩野清美 和歌山大学 教育学部 准教授

川地亜弥子 神戸大学 人間発達環境学研究科 准教授

【研究概要（申請書より抜粋）】

自らや仲間の豊かな発達を求める発達要求は、青年から成人期への発達推進力とも言われている。本研究は、大学生の学習・研究に係る要求を中心に、2つの柱により青年・成人の発達要求に応える大学のあり方を探る。

1つは、災害などで学習環境が揺らぐ状況で、学生が自らと仲間や地域の人々の発達・学習する権利を再構築しようとしていく過程の調査である。代表者と共同研究者の白井は、昨年度に本研究助成に採択され、学生の教育権についての意識の調査を行い、学生たちの社会認識が、身近で具体的な要求から深化していく過程などを明らかにした。本年度は通常の状態での大学学習に加えて、被災などの状況下での学生の学習要求と発達の関係を、教育学の研究者もチームに加えて多面的に分析する。

2つめは、大学・大学界が学問・研究を通じて成人の発達を支援する方法論開発である。具体的には、子育てしながら参加できる学術イベントのあり方検討と試行を行う。学問・研究は世界を捉えなおす営みで、研究要求もまた青年・成人期の発達要求の1つである。だが現在の大学・大学界は、人々の生活（ケアや仕事）と研究の両立を十分には支えていない。託児サービスが徐々に導入されているが、それだけでは不十分である。本研究で学術イベントの新しい在り方を探ることで、「生活しながら研究し、生涯発達する個人」を支える大学・大学界のあり方についての示唆を得る。